

子どもたちからのおくりもの

— 普段、気がついていないかもしれないけれど、みんなは回りの大人の人たちに明るさと元気を与えています。エネルギーを与えています。例えば、朝の明るいあいさつ。おうちの人、地域の見守りの方々、先生たちが幸せな気持ちになります。運動会とか音楽会とかでのみんなの頑張り。一生懸命、演技し、歌い、演奏する姿を見て感動の涙を流す人もいます。みんなは人の心を動かす大きな力をもっているのです。 —

これは、以前に私が児童朝会で子どもたちに話した内容です。私たち大人は子どものこういったところに心を動かされるのでしょうか。

- ・成長の実感—まだまだ幼くいつも甘えてばかり。これもできない、あれも難しいと思っていたのに、いつの間にかこんなことまでできるようになったのだなあ…
- ・素直さ、純粹さの再認識—こんなにけなげに、ひたむきに頑張っている。知らないうちに私たち大人はこういう心をどこかに置き去りにしてしまっていたなあ…
- ・やさしさへの感動—「お母さん、いつまでも元気でいてね」「お父さん、疲れたやろ。肩たたこうか?」。子どもの口から何気なく出てくるこうした言葉についてのるときませんか。
- ・叱りすぎたことへの反省の念—こんなに純粹で、素直で優しく、頑張っていてかわいいのに、あんなに叱らなければよかった…

一日の内、限られた時間を子どもたちとともに過ごしている我々学校教職員でも、上記のようなことで心が動きます。いつも子どもたちの身近にいらっしゃる保護者の皆さんは、なおさらだと思います。

カントの「人は人によって人になる」という神戸の教育理念のもと、学校では教科指導、生徒指導、学校行事での指導等、多くのことを教えています。当然、子どもたちの将来を考えてのことです。しかし、どうしてもやはり、「あれもできない、これもまだだ」とつい追い込んでしまい、「どうしてできないの」と叱り口調になることも少なくありません。これは「人（子ども）は人（大人）によって人（より豊かな人間）」になるという考え方に拠るからでしょう。子どもは大人によって育てられているというわけです。が、大人が子どもたちに心を動かされることが多いといった観点からすれば、「人（大人）は人（子ども）によって人（より豊かな人間）になる」とも言えます。

音楽会練習にけなげに取り組み、日々上達していく子どもたち。明日の本番はこれまでで最高の出来になると予想されます。そして、私たち大人は、また子どもたちから素晴らしい感動のおくりものをいただくことになるでしょう。稗田の愛すべき子どもたち、本当にありがとう。